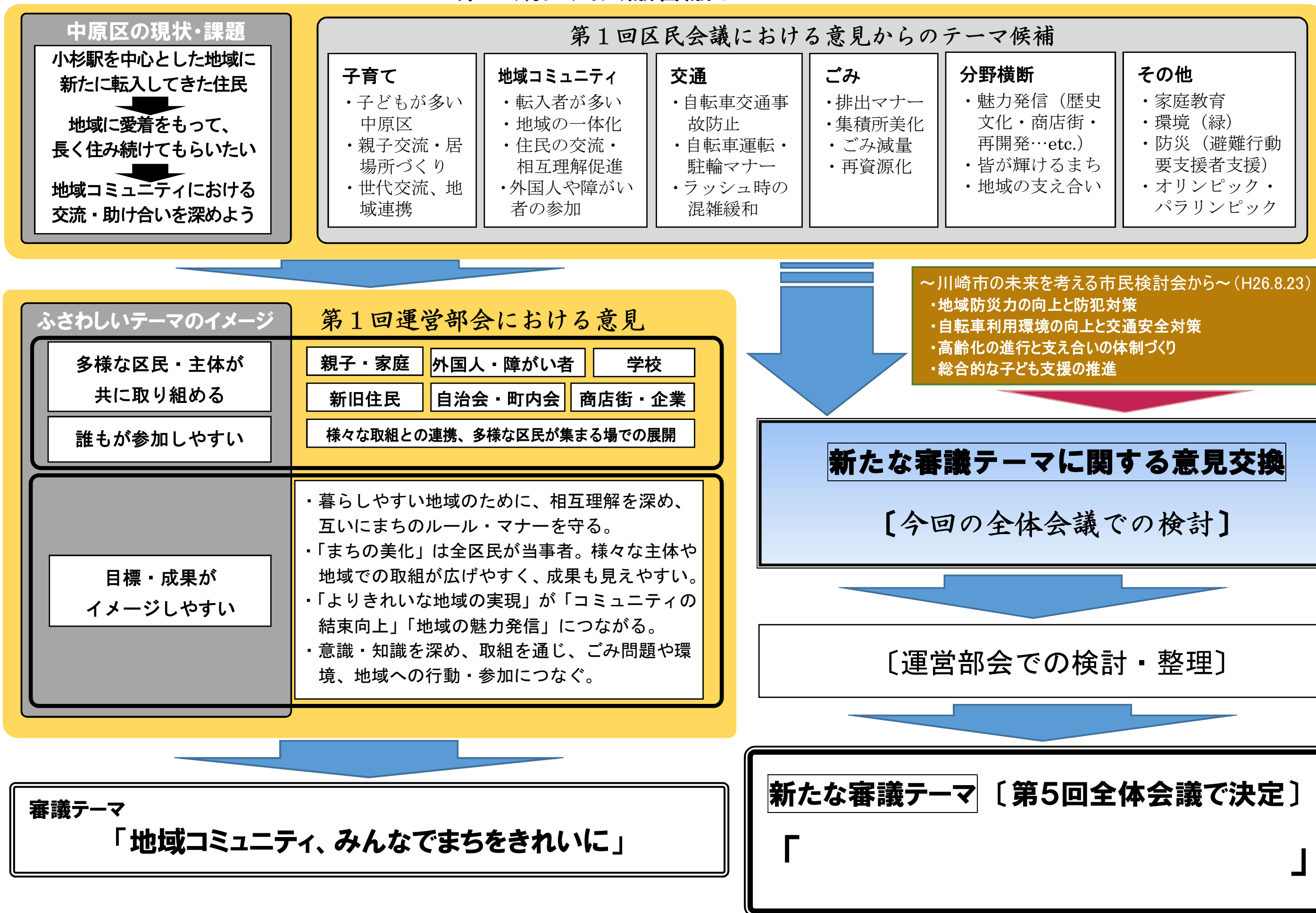


第5期区民会議審議テーマについて



川崎市の未来を考える市民検討会【H26. 8/23 開催】 資料（抜粋）

●中原区の現状と主な課題

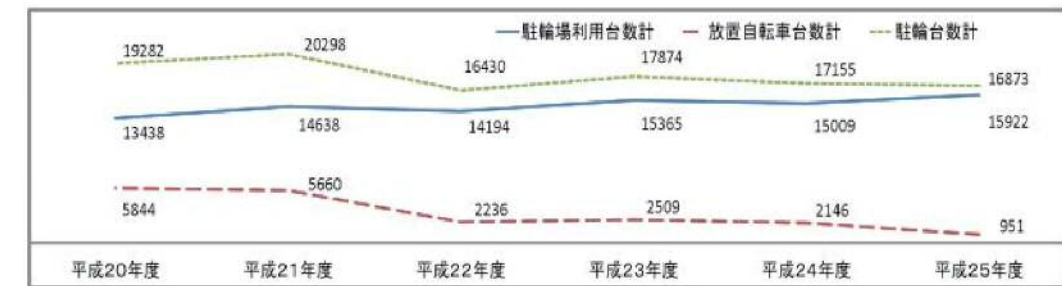
●地域防災力の向上と防犯対策

- ◇東日本大震災を契機として、地域の特性等を踏まえた地域の防災力の強化が求められています。地域の防災力の向上には、市民・企業・行政が連携して防災対策に取り組むことが重要であることから、中原区防災連携協議会を設置し、災害時の対応等について検討を進めてきました。今後は、分野ごとに設置した部会において、より実践的な検討を行う必要があります。
- ◇大型集合住宅の建設や人口増加が進む中、災害に備え自主防災組織の結成を促進するとともに、これまでの町内会を中心とした自主防災組織との連携体制を一層強化する必要があります。
- ◇武蔵小杉駅は交通結節点であり、災害時には多くの帰宅困難者の発生が予想されるため、帰宅困難者対策を講じる必要があります。また、災害発生時の医師、負傷者、医薬品等の移送・輸送など、医療・救護体制の現実的な対応を検討し、区と医療機関との災害時連絡体制を確保する必要があります。
- ◇まちの急速な様変わりや人口増加が続いている中原区では、刑法認知件数が減少傾向にある中、振り込め詐欺の被害は大幅に増えていることや不審者・ちかん事案が発生していることにより、安全で安心なまちづくりへの区民の関心が高まっています。

●自転車利用環境の向上と交通安全対策

- ◇中原区は平坦な地形が多く、自転車は区民の重要な移動手段となっています。しかし、駅周辺に大量に放置された自転車は、歩行者や自動車の通行の妨げになっています。
- ◇これらの改善に向け、放置自転車撤去作業を強化し、継続して啓発活動を行なった結果、通勤・通学者による自転車の放置は改善されてきています。
- ◇一方で、午後の時間帯における買い物客の自転車が問題となっています。買い物客の自転車は、駐輪時間が短時間のため撤去による改善が見込めないことから、商店街等と連携し、駐輪場の利用状況等を把握した上で、実情に見合う対策を行なっていく必要があります。
- ◇中原区は全交通事故に占める自転車関係事故の割合が3割を超える（平成25年）状況であることから、自転車交通事故多発地域に指定されています。
- ◇道路交通法における自転車の通行ルールの周知や利用マナーの向上とともに、自転車事故を減少させるための安全対策が必要です。

自転車台数の推移：(台/日) 平日9時



出典：川崎市内鉄道駅周辺における放置自転車等実態調査（平成25年6月）

中原区内の曜日・時間別放置自転車

	時間	平間駅	向河原駅	武蔵小杉駅 (南・東)	武蔵小杉駅 (横須賀)	武蔵中原駅	武蔵新城駅	新丸子駅	元住吉駅
		平日	9時	83	73	21	13	46	488
平日	16時	83	55	140	14	84	538	181	200
休日	12時	76	29	265	24	82	638	198	530
休日	16時	140	28	455	21	128	1021	211	662

出典：川崎市内鉄道駅周辺における放置自転車等実態調査（平成25年6月）



災害に備えた自主防災組織の消火訓練



警察官や交通指導員による交通安全教室



緊急車両の安全通行の支障になっている



放置自転車と買い物客でいっぱいの商店街

●高齢化の進行と支え合いの体制づくり

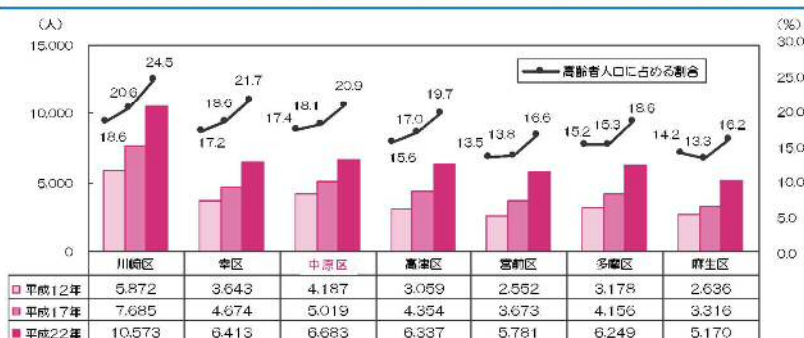
◇中原区の高齢化率は平成26年3月末現在で15.0%であり、川崎市18.4%と比較すると若い区であると言えます。しかし、区内には昔から居住している方が多い地区がある一方で、高層マンション等の建設により新しい住民が増えている地区もあるため、高齢化率が高い地域も年々増加しています。

◇中原区の高齢者数は今後も増加していきます。認知症高齢者の推計値は平成37年に5,100人となるため、認知症高齢者やその家族を地域で支えることができるよう、住民同士が地域で声をかけ合える関係づくりや認知症に対する理解を深めていくことが必要です。

◇中原区の1世帯あたりの世帯人員は、平成26年4月1日現在で1.99人と市内で最も少なく、高齢者の5人に1人はひとり暮らしです。今後も高齢者の単身世帯や夫婦世帯が増えていくと考えられます。高齢者を孤立させないための取組が一層強く求められています。

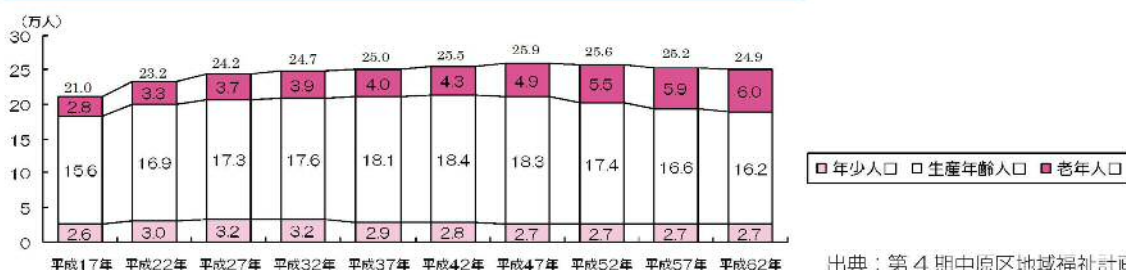
◇区民誰もが、いつまでも元気で生き生きと暮らせるように、生涯をととした健康づくりができるよう気軽に楽しみながら健康づくりや介護予防の活動に参加できる取組を進めていくことが必要です。

区別ひとり暮らし高齢者数と高齢者人口に占める割合の推移



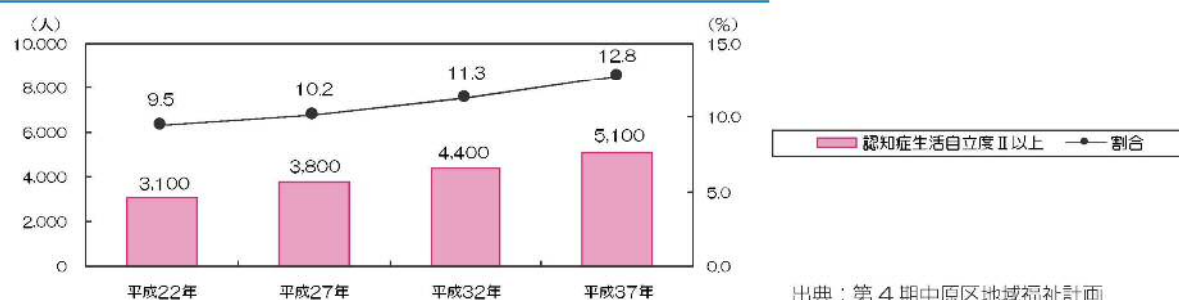
出典：国勢調査

中原区の将来推計人口



出典：第4期中原区地域福祉計画

中原区の認知症高齢者数



出典：第4期中原区地域福祉計画

●総合的な子ども支援の推進

◇中原区は、出生数が市内7区のうちで最も多く、子どもの数も年々増加しています。また小杉地区を中心に大型マンションの建設が進み、子育て世帯の転入が増え、知り合いが少ない状況で子育てをしている人が多くいます。

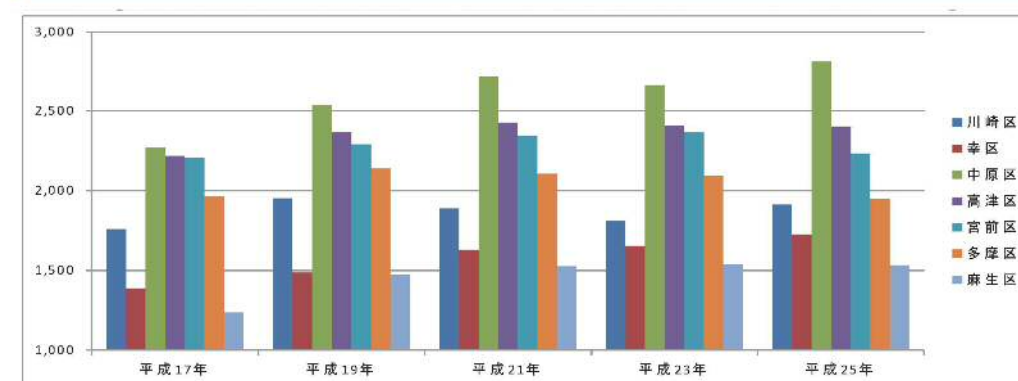
◇地域の間関係の希薄化、子どもが育つ環境の変化などによる育児不安の増大や子育て家庭の孤立化などの問題があり、地域で安心して子育てできる環境を作るため、相談窓口や交流の場を充実させていく必要があります。

◇区内には民生委員・児童委員をはじめ、地域の方々が運営する「子育てサロン」が20箇所あり、安心して地域の人や子育てをしている仲間とふれあう場になっています。

◇地域全体で子ども・子育て支援を進めていくために、住民同士が支えあう仕組みづくりや、日常の交流を促す取り組みを更に進めていく必要があります。

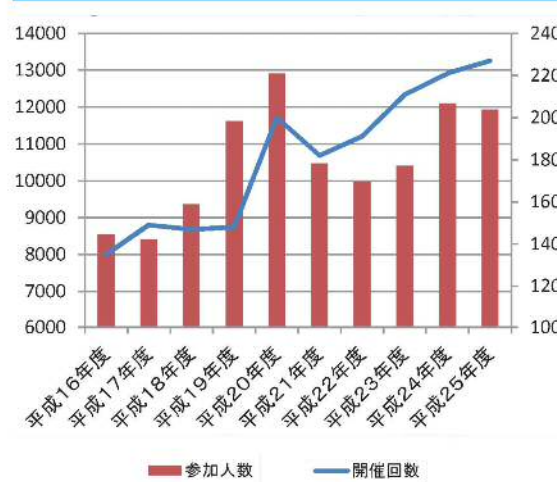
◇子育てサロンや乳幼児健診のサポート等、区内には様々な場で子育て支援をしているボランティアの方がいますが、地域で子育て支援に携わる方がより一層増えていくことが必要です。

川崎市各区における出生数の推移



出典：川崎市年別人口（各年10月1日現在）をもとに作成
の人口動態 12月31日

中原区子育てサロンの参加人数・開催回数



子育てサロン